

ちよつといし話

～健康～

医学博士の奈良道隆氏は論文の中で近代医学の生命観として、近代医学は「機械論的生命観であり人間を精巧な機械にみたてる。その理由として臓器は機械の部品であり、病気は機会の故障であり、治療は機会の修理と言う事になる。もちろん単純な機械ではなく全体的に連動する機械とみえています。」お医者様にも色々な方がみえます。患者の立場を全て把握する事は難しく、言い換えれば精巧に作られたロボットの修理に似てしまうのは止むを得ない事でしょう。健康とは何か？を考える前に、まず人間として生活するには心身共に健康でなければ不満足であると言う事です。現在日本人の生活習慣を見てみますと、家庭生活の中で自然に相反する行動が多々見受けられます。その事が魂の欠落を招き、社会の崩壊、危機観を募らせています。佛教では五常と言って仁、義、礼、智、信の五つの人間として常に行うべき事があります。なかでも慈悲の心をもって接する事を強調する。なぜならば人間は自我が強くなり自己中心的になり易いからです。それは小学校に警備員を置かざるを得ない現況を見れば理解できるでしょう。尋常ではありません。改革するには日本人としての民族意識を高め誇れる民族教育を早急に信念を持って取り組むべきだと思います。早く抜け出す為には仏教を取り入れる事も必要です。32,34号参照して下さい。仏教に調五事と言う教えがあります。それは食事、睡眠、身体活動、呼吸、心、の五つが過不足なく調和のとれる状態を保つ事が出来れば健康になる。

と言う事を教示している。緩緩（かんかん）

善入院油掛地藏尊